

診断士2次試験の合格後に実施される「実務補習」。

合格者は初めて

実際の企業と関わり

実務経験を積むという

新たな展開を迎える。

実務補習はどのような流れで行われ

受講者に何を求めているのか。

本特集では、受講者や指導員へのインタビューを交えながら

読者が実務補習を安心して

迎えられるようご案内する。

特集

「実務補習」へ

コース別体験談と指導員からのお誘い

いらっしやい

【取材・執筆】小林 健了/長東 大樹/前島 瑞希/前野 純一/森本 浩臣/海老沼 優文

序章 実務補習を知ろう

[受講者に聞く]

- 第①章 実務補習15日間コース 坂田 政寿さん
- 第②章 実務補習5日間コース 吉田 博之さん
- 第③章 実務補習+実務従事 上村 哲さん
- 第④章 民間実務従事 片山 泉さん

[指導員に聞く]

- 第⑤章 「知的資産経営マネジメント」で考える 森下 勉さん
- 第⑥章 「実践できる提案」で考える 若林 敏郎さん

[受講者×指導員の座談会]

- 第⑦章 15日間コースを振り返って

終章 実務補習後の世界



⑦⑧「実務補習」へ

コース別体験談と指導員からのお誘い

いらっしやい



序章

実務補習を知ろう

小林 健了
中小企業診断士

中小企業診断士試験に合格された皆様、おめでとうございます。期待に胸を膨らませていることと思います。これからは、受験勉強とは違う実務の世界が待っています。その最初の一步が、「実務補習」です。

この実務補習、各所から「いろいろ大変だ」という声のほか、「実態がよくわからない」といった声も聞かれます。本特集では、実務補習の受講経験者や指導員にインタビューを行い、受講者はどのように実務補習を迎え、対応していけばよいのかについて、お伝えしていきます。

1 実務補習とは？

(1) 中小企業診断士登録のために必要

まず、試験に合格したら、中小企業診断士として「登録」する必要があります。その登録要件として、2次試験に合格してから3年以内に「実務補習」または「診断・助言業務」のいずれかを、通算15日以上実施することが規定されています。

(2) 活動内容

受講生は6名以内でグループを組み、指導員の下、実際の企業に経営診断・助言を行います。活動内容は、大枠で4つの期間に区分できます。

1企業あたり5日間かけて実施し、15日間コースではこのスケジュールを3回繰り返します。

ただし、ヒアリングや報告の時期・時間帯などは診断先企業や指導員によって異なりますので、詳細については各回の指導員に確認をとるようにしてください。

①事前準備

実務補習初日の約1週間前に、指導員から診断先企業の概要が送付されます。これを基に、インターネットや図書館などで情報収集を行います。

②1～2日目

班員の顔合わせと役割分担、社長ヒアリング、提案の全体像を検討します。

③自主学習期間

自主学習期間では、2日目に決めた提案の全体像や各自の役割を受けて、提案の詳細検討や診断報告書の作成を行います。

④3～5日目

自主学習期間に作成した各自の診断報告書を持ち寄り、全体整合を取りながら診断報告書を仕上げます。それを携えて診断先企業に訪問し、社長報告を行います。

(3) 講習のスケジュール

例年、2月の冬期講習、7～9月の夏期講習の